

平成 27 年度工学系共通経費による顕彰と研究助成 成果報告書

所 属	大学院理工学研究科土木工学専攻
研究者(ふりがな)	佐々木 栄一 (ささき えいいち)
タイトル	アジア・ブリッジコンペティション(ABC)による国際交流・教育連携
助 成 名	AOTULE 加盟大学以外のアジア・オセアニアの大学との教育研究連携助成
採択金額	800,000 円
<p>背景と目的</p> <p>アジア・ブリッジコンペティション (ABC) は、アジア圏で土木工学を学ぶ大学生が自らが製作した橋梁模型の性能と架設パフォーマンスを競う大会である。アメリカ土木学会が行っているブリッジコンペティションのアジア版として 2008 年にタイで開催されて以来これまで 8 回の開催実績があり、タイ、台湾、日本の大学が参加を続けている。各参加校はルールに則った橋梁模型の設計と部材の加工を事前に済ませ、大会会場では橋梁の性能として重量、載荷時の変形、デザイン性を、架設パフォーマンスとして架設に要する時間と人員数、安全性を競う。ここで助成を頂きましたアジア・ブリッジコンペティション (ABC) 東京大会 (ホスト校: 東京工業大学) (以下、本大会) は平成 28 年 3 月 14 日～16 日に実施することとした。</p>	
<p>実施概要</p> <p>本大会は、台湾、タイ、日本から計 11 大学が参加して、平成 28 年 3 月 14 日～16 日の日程で実施した。</p> <p>【スケジュール】</p> <p>平成 28 年 3 月 13 日 来日</p> <p>平成 28 年 3 月 14 日 開会式、プレゼンテーション、架設練習</p> <p>平成 28 年 3 月 15 日 架設競技、美観評価、載荷試験、採点、表彰式</p> <p>平成 28 年 3 月 16 日 フィールドトリップ (東京ゲートブリッジ、横浜ベイブリッジ)</p> <p>【開催場所】</p> <p>アジアからの参加者の宿泊費をおさえるため、国立オリンピック記念青少年総合センターに宿泊先としておさえることとした。メインイベント会場としては、百年記念館 3 階フェライト会議室を利用し、開会式やコンセプトプレゼンテーション、表彰式を、70 周年記念講堂で実施した。また、フィールドトリップは、東京ゲートブリッジと横浜ベイブリッジの踏査を実施することとした。</p> <p>【参加大学】</p> <p>本大会には、常連校である下記の大学が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ King Mongkut 工科大学 Ladkrabang 校 (タイ) ・ Kasetsart 大学 Sakon Nakhon 校 (タイ) ・ Kasetsart 大学 Kamphaeng saen 校 (タイ) ・ Rajamangala 工科大学 (タイ) ・ Kasetsart 大学 Bangkhen 校 (タイ) ・ Srinakharinwirot 大学 (タイ) ・ 国立中央大学 (台湾) ・ 岐阜大学 (日本) ・ 福井大学 (日本) ・ 東京都市大学 (日本) 	

国際連携用

<p>・東京工業大学（日本）</p> <p>【連携体制】</p> <p>構成員としては上記常連校が主体であり、これまで 8 回の実施実績があることから連携体制は概ね確立されており、円滑な運営を行うことができた。</p> <p>【成果の公表方法】</p> <p>本大会における取り組みは、専門誌「橋梁と基礎」へ紹介の記事を寄稿する予定となっている。</p> <p>【大会結果】</p> <p>本大会においても、協議結果に基づき、評価カテゴリー毎に上位 2 位まで表彰を実施した。総合的には、国立中央大学（台湾）の優勝で幕を閉じた。</p>																							
<p>本年度の成果</p> <p>第 9 回アジア・ブリッジコンペティションを東京工業大学がホストとなり、東京で初めて開催した。例年のように、タイ、台湾からチームが参加した。東京工業大学チームも工学部土木・環境工学科の学生 6 名で構成され、独自の橋梁を設計、製作し、競技に臨んだ。本大会に参加することで、国際的な交流が進められ、また、それぞれの国や大学の文化を知り合う機会となり、教育上も重要な経験となったと考えられる。本大会は、円滑に進めることができ、今後につながる国際連携を実施できたと考えている。次回は、台湾国立中央大学で実施されることとなっている。その際には、インドネシアからの参加もあるとの予定も聞いており、さらに、交流が広がっていく可能性がある。また、次々回のホストも決定し、Srinakharinwirot 大学（タイ）が担当することとなった。引き続き、ものづくり、デザイン、国際交流といった様々な視点で重要と考えられることから、参加を継続していく予定である。</p>																							
<p>使用内訳書</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>費 目</th> <th>内 訳</th> <th>金 額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>備品 1</td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>備品 2</td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>消耗品</td> <td>橋台用 H 鋼、載荷用角鋼</td> <td>¥202,703</td> </tr> <tr> <td>旅 費</td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>バス手配費用 会議室使用料</td> <td>¥592,500</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td>¥795,203</td> </tr> </tbody> </table>			費 目	内 訳	金 額	備品 1		0	備品 2		0	消耗品	橋台用 H 鋼、載荷用角鋼	¥202,703	旅 費		0	その他	バス手配費用 会議室使用料	¥592,500	合 計		¥795,203
費 目	内 訳	金 額																					
備品 1		0																					
備品 2		0																					
消耗品	橋台用 H 鋼、載荷用角鋼	¥202,703																					
旅 費		0																					
その他	バス手配費用 会議室使用料	¥592,500																					
合 計		¥795,203																					

記入上の注意：

備品は、品名ごとに記入。

差額が生じた場合は、消耗品で調整。

消耗品を購入しなかった場合は、経費の差額と補填した予算科目名を合計額の内訳欄に記入。